



平成 24 年に淡路人形座の新館が福良に完成。道の駅福良と、みなとオアシス福良の構成施設として観光名所にもなっています



淡路人形座は公演だけでなく、淡路人形浄瑠璃の発展・普及活動に取り組んでいます

そんな時、淡路島の伝統芸能を守ろうとする人々の力で 1964 年「淡路人形座」が立ち上げられました。

以来、淡路人形座は、島内で唯一プロとして活動する人形

座として、常設会館での年間 1200 回以上の公演のほか、島内外への出張公演約 100 回、海外公演、後継者団体への指導など、淡路人形浄瑠璃の継承・発展に努めています。

全国各地でもはやされた淡路人形芝居でしたが、明治になると、大きな時代の変化の中で観客の関心が他の娯楽に移ったり、人形芝居の修行の辛さから若い後継者が育たなかつたりで、古くからの人形座は次々に姿を消し、淡路人形芝居は消滅の危機にさらされました。



阿淡汽船 2 階にあった淡路人形座 (昭和 51 年)

淡路人形座の誕生

500 年の歴史をもつ淡路人形芝居命が宿ったかのように演じる人形たちが人間の喜怒哀楽を豊かに表現し多くの人が魅了されてきました

受け継がれる伝統芸能

淡路人形浄瑠璃

淡路人形浄瑠璃の歴史

淡路人形浄瑠璃の起源は、室町時代末に西宮神社に仕えていた百太夫という傀儡師（人形遣い）が、三原郡三条村（南あわじ市市三條）に来て、地元の人

に人形操りの技を伝えたとの説が有力です。江戸時代には阿波藩主・蜂須賀氏の支援を受け、享保・元文の頃（18 世紀はじめ）に最も栄え、上村源之丞座、

市村六之丞座など島内に 40 以上の座本があり、全国を巡業して人形浄瑠璃文化を伝えてきました。北は東北、南は九州一円で

の興行記録が残っています。

全国各地に今も残る 100 以上の座本があり、淡路人形芝居の多くは淡路島が人形芝居のルーツと言われています。



昭和 30 年頃の野掛け芝居の様子

淡路人形座の座員一同

淡路人形座情報

- 公演時間 10:00 11:10 13:30 15:00
- 入場料 大人 1,500 円、中高生 1,300 円
小学生 1,000 円 幼児（3 歳以上）300 円
- ※公演内容等は 18 ページ 5 ばんを参照
- ☎淡路人形座 ☎ 52-0260



ぜひ淡路人形浄瑠璃を見に来てください

- ・公演によっては字幕もあり、より楽しんでいただけます。
- ・Tik Tok でのおもしろ動画も配信中！座員が発信している SNS もチェックしてくださいね。
- ・特別公演を定期的に行っているほか、2 月 3 日には講師の神田松之丞さんとコラボ公演も行います。